

たばこ産業の本音と建前

福田 健一/Tokiyuki Ikeda

WHO(世界保健機関)の調査によると、日本人男性の喫煙率は約52%で、先進国の中でも最も高い喫煙率と報告されている。この喫煙率の要因の一つに、日本のタバコが安いことが挙げられる。先進国のタバコの価格と比較してみると、アメリカ、ニューヨーク州が840円(1ドル=120円)、イギリスで800円(1ポンド=160円)、フランスとドイツが375円(1ユーロ=120円)と、概ね日本の約300円という日本の価格と比べても日本のタバコの方がかなり安いことがわかる。しかし、日本が他の先進国と最も異なる点はタバコを取り巻く環境だろう。

未成年者のタバコ購入に厳しいアメリカなどと違い、日本では未成年でもタバコ自動販売機を通して簡単にタバコを購入することができる。未成年者によるタバコの喫煙は、成年者の喫煙よりもさらに体に悪影響を及ぼす。未成年者の体内では、成長段階で細胞分裂が盛んに行われているため、煙の中の有害物質を取り込みやすく、たばこを吸い始める年齢が低いほどその量は大きい。未成年から、

の喫煙者は非喫煙者に比べ、がんによる死亡率は約2倍、心臓病による死亡率は約3.7倍にもなるといわれている。それにもかかわらず、未成年者がタバコを手に入る最も簡単な方法であるタバコ自動販売機の設置は、62万5000台で販売店総数の2倍である。アメリカの約10万台と比べても、ずば抜けて多い事が分かる。国民生活は98年度の調査で、未成年喫煙者が90万人以上と報告している。タバコ産業を管轄する財団法人は89年7月から、未成年者の喫煙禁止を要請するため、広域に普及しない自動販売機の設置は許可していない。だが、それ以前の自動販売機は管理が不十分なまま、この未成年による喫煙問題に対して、タバコ業界も98年度から午後1時から午前5時まで自動販売機を稼働させないようにした。しかし、

94年度の国民生活調査で、未成年者がよくタバコを買う時間帯は、「午後5~11時」だったことから、その自主規制に効果があるとは思えない。このような不十分なタバコ自動販売機の規制の中、存在地西部の厚木町で、2001年4月1日からたばこ自動販売機の稼働を禁止する条例の条例「たばこ条例」を施行した。この条例はタバコや酒類、右翼団体を扱う雑誌自動販売機を全面禁止するもので、既存の自動販売機は180日以内に撤去するよう定めたものだが、タバコの自動販売機36台のうち、撤去または屋内に移動されたのは、条例の公布時点で8台だけだった。これは、町内のタバコ販売業者が「売り上げ減少につながる」と強く抵抗したことが背景にある。実際、売り上げの半分以上を自動販売機に頼る販売店もある。さらに、全自治体たばこ販売協同組合連合会も、「自動販売機は日本の伝統的な商文化。売り手と買い手の両方にとって便利で不可欠な販売手段」とし、町と真っ向から争う構えを示した。これに対し、町長は「愛煙家は自販機がなくても買うから、売り上げは大きく減らないはず」と反論している。

未成年者の喫煙禁止対策はうまく進んでいないが、喫煙マナーの面では対策が成った例もある。千代田区では2002年の10月1日から歩きタバコや投げたばこなどを禁止する「安全で快適な千代田区の生活環境の整備に関する条例」が制定された。違反者には2千円の罰金が課せられ



る。11月末までに再発防止になった人は746人に上ったが、区内4カ所で9月末に調査した時点で、99.5%の喫煙者があったのが、条例施行後2カ月経過した12月3日の調査では98.5%減の1.5本と、新しい成果を挙げている。

このように、地方自治体レベルでも真摯に取り組めば成果をあげられるにもかかわらず、たばこ協会は自動販売機が日本の伝統的な商文化であるとして、その利益を守る事しか考えていない。さらに、JT(日本たばこ産業株式会社)が未成年者喫煙防止への賛助で活用している「未成年者向け広告・販売促進活動の自粛」があるが、アメリカなどと異なり日本ではテレビでタバコのCMが大衆に放送されているのが現状だ。このような本音と建前を使い分け、利益を追求するばかりで身を伴わない対策では成功はありえない。未成年者による喫煙問題を解決するために、たばこ協会には自販機を通して未成年者にたばこを売っている現状を自覚し、その利益確保の努力を怠らしてもらいたい。

このように、地方自治体レベルでも真摯に取り組めば成果をあげられるにもかかわらず、たばこ協会は自動販売機が日本の伝統的な商文化であるとして、その利益を守る事しか考えていない。さらに、JT(日本たばこ産業株式会社)が未成年者喫煙防止への賛助で活用している「未成年者向け広告・販売促進活動の自粛」があるが、アメリカなどと異なり日本ではテレビでタバコのCMが大衆に放送されているのが現状だ。このような本音と建前を使い分け、利益を追求するばかりで身を伴わない対策では成功はありえない。未成年者による喫煙問題を解決するために、たばこ協会には自販機を通して未成年者にたばこを売っている現状を自覚し、その利益確保の努力を怠らしてもらいたい。



未成年者の喫煙よりもさらに体に悪影響を及ぼす。未成年者の体内では、成長段階で細胞分裂が盛んに行われているため、煙の中の有害物質を取り込みやすく、たばこを吸い始める年齢が低いほどその量は大きい。未成年から、



Can't Read This Page Yet?

日本 -Japan-

JAL 101 - 01 Elementary Japanese 2

Saturdays, 9:00 am - 12:50 pm

Fall Semester, 2003

Lehman College

Dept. of Languages & Literatures

Information: (718) 960-8215

Or send an e-mail to: tochika@lehman.cuny.edu